

多国間核軍縮交渉の前進に関する公開作業部会5月会合への出席等について（帰国報告）

1 概 要

スイス・ジュネーブ市の国連欧州本部で開催された「多国間核軍縮交渉の前進に関する公開作業部会」の5月会合に出席し、核兵器の法的禁止に向けた動きを更に加速するよう為政者のリーダーシップを求めるとともに、広島と長崎への訪問を呼びかけた。

また、国連に被爆樹木の苗木を贈呈し、核兵器のない平和な世界の実現を願うヒロシマのメッセージを伝えるとともに、国連、各国政府関係者及びNGO関係者との意見交換を行った。

2 出張者

広島市長 ((公財) 広島平和文化センター会長、平和首長会議会長) 松井 一實ほか4名

3 出張期間

平成28年4月30日（土）～5月5日（木）4泊6日

4 主要用務の報告

(1) 5月1日（日）

ア 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)主催ミーティングへの出席

核兵器廃絶に取り組んでいる国際的なNGOである核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が主催するミーティングに出席して挨拶し、為政者の核兵器禁止に向けた決意が現実の政策転換に結実するよう市民社会の立場から全力で後押ししなければならないと訴え、核兵器廃絶に向けた多様な取組を相互補完的に運動させ、核兵器のない平和な世界の実現に向けて協働することを呼び掛けた。



イ ひろしま平和大使との面会

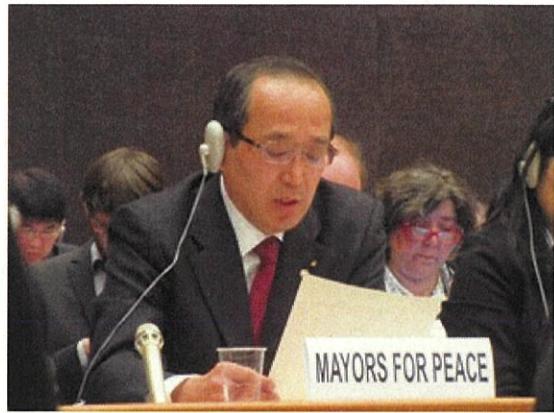
このミーティングに参加していたひろしま平和大使である、被爆者のサーロー節子氏（カナダ在住）及び米国で被爆体験継承活動を行っているキャサリン・サリバン氏と面会し、「ヒロシマの心」を発信してもらっていることへの謝意を伝えた。両者からは、オバマ大統領の広島訪問が実現した際には、被爆者の思いを汲んだメッセージが発出されることを願っているとの希望が示された。



(2) 5月2日（月）

ア 公開作業部会での市長メッセージ発表

公開作業部会初日となったこの日、市長が平和首長会議を代表して発言し、先月のG7外相会合において米国のケリー国務長官が被爆の実相を受け止めて「核兵器のない平和な世界を作るために私たちが尽力しなければならない責任を思い起こさせてくれた。」と発言したことを紹介し、そうした思いを市民社会の幅広いパートナーとともに、全力で後押ししたいと述べた。その上で世界の為政者に対し、「核抑止」の発想を転換し、同胞意識の下に結束して核兵器禁止条約の締結に向け、果断なリーダーシップを發揮するよう訴えた。さらに、その決意をより確かなものとしてもらうために、広島・長崎訪問を呼びかけた。



イ 国連への被爆樹木の苗木の贈呈

公開作業部会出席者に対し、核兵器のない平和な世界の実現を願うヒロシマのメッセージを発信し、核兵器廃絶への意識を高めもらうことを目的として、マイケル・モラー国連欧州本部長に被爆樹木の苗木を贈呈した。モラーワーク本部長は、今後国連欧州本部でこの苗木が成長するにつれ、広島や長崎のことを想起させ、核兵器のない世界に向けた希望のシンボルとなるだろうと述べた。贈呈式には、タニ・トーンパクディ公開作業部会議長やニキル・セス国連訓練調査研究所本部長、佐野利男軍縮会議日本政府特命全権大使をはじめとして、国連、各政府、NGO等の関係者約60名が出席した。



ウ 被爆の実相等を紹介するブースの出展

議場前にブースを設置し、被爆樹木の苗木の展示やDVDの上映、資料配布等を行った。会合開始前に被爆樹木の苗木の贈呈式を実施し、会合初日に市長がメッセージを発表したこともあり、出席者の関心は高く、多くの各政府、NGO関係者がブースに立ち寄った。



(3) 5月3日（火）

平和N G O関係者との面会

核軍縮を政策に反映させるために結成された80か国800人以上の国会議員から構成されるN G Oである核軍縮・不拡散議員連盟(PNND)及び核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)の関係者と面会し、核の傘の下にある国が核抑止の考え方から脱却し、非核兵器国と協力して核兵器廃絶に向けて核兵器国に対して協働を呼びかけるよう、加盟都市と共に働きかけをしていく等平和首長会議の取組方針を説明し、連携を深めることについて了解を得た。



(4) 5月4日（水）

ア マイケル・モラー国連欧州本部長との面会

潘基文国連事務総長宛の「核兵器禁止条約」の早期実現に向けた取組の推進を求める要請書を手渡し、今回の公開作業部会で、国連の主導の下、各国政府が核兵器国と非核兵器国という対立構造ではなく、共通のゴールである核兵器廃絶に向けて現実的かつ生産的な議論を進めるよう求めた。その上で、2008年に国連事務総長が提案した「核軍縮のための5項目」の実現に向けて、国連の更なるリーダーシップ発揮と為政者の広島・長崎訪問への支援を要請した。モラーノ本部長は、平和首長会議の活動に対する全面的な協力を約束されるとともに、為政者の被爆地訪問を実現させるために、核軍縮に関する国際会議の本市への誘致等の提案があった。



イ タニ・トーンパクディ公開作業部会議長との面会

公開作業部会の取りまとめに向けて、法的措置の議論が具体的かつ現実的に進むように議事を進めてほしいと要望した。また、被爆の実相と被爆者の思いを為政者に感じてもらうためには広島と長崎の訪問が重要であることを説明した。トーンパクディ議長は、全ての国が核兵器廃絶という同じゴールを目指しているが、それをいかに実現するか、また、どのようにして全ての国が合意し、成果を出していくかが大変重要な課題であるとの認識を示した。



5 所感

- (1) 被爆地の市長として、また平和首長会議の会長として、NGOの1番目に発言の機会を得て、核兵器廃絶の議論においては、核兵器国、非核兵器国が対立構造ではなく、相互理解と多様性を尊重する中で議論し、核兵器廃絶を明確に決意する環境を創出すべきだと訴えた。今後も加盟都市と共に国連やNGOと連携しながら各国の為政者に対して核兵器に依存しない安全保障を目指すよう働きかけを継続していきたい。
- (2) また、市長に続き、2人の被爆者が、為政者が被爆地を訪問し被爆の実相に触れるとの意義について発言したことを受け、日本政府代表が核兵器国3か国も参加したG7外相会合の広島宣言を引用し、「他の人々が同様に広島及び長崎を訪問することを希望する。」と述べたほか、スウェーデン政府代表が同様の発言をするなど支持が相次ぎ、本市が求めている被爆地訪問への理解が広がった。
- (3) この度の作業部会においても核兵器国は欠席であったが、83カ国の政府代表のほか、平和首長会議や広島、長崎の被爆者などNGOも多く参加し、法的措置や多国間核軍縮交渉について活発な議論が交わされていた。
こうした中、会議の合間に、公開作業部会議長であるトーンパクディ氏やモラー国連欧州本部長にお会いし、具体的な前進が図られるよう要請したところであり、今後、核兵器の法的禁止に向けた動きが更に加速するよう期待している。
- (4) また、今回、国連欧州本部の協力により、同本部に初めて被爆樹木の苗木を贈呈したほか、議場入口のブースへの資料展示を通じ、平和首長会議の取組の周知を図ることができた。
- (5) その他、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）やひろしま平和大使などNGOの関係者との面会を通じ、すべての国が国家のための安全保障ではなく市民のための安全保障の構築に取り組むよう、核兵器廃絶に向け協働していくことを呼びかけた。今後、さらに各方面との連携を強化し、核のない世界実現に向けた市民社会の幅広い運動を促進していきたい。